

富里市教育委員会点検及び評価

(令和 7 年 3 月末時点)

<目 次>

1. 教育委員会の点検及び評価について	1
2. 令和 6 年度富里市教育委員の活動状況	2
3. 令和 6 年度とみさと教育プランに基づく令和 6 年度事業目標と評価 概 要	3
(1) 確かな学力を育む	4
(2) 健全な心と体を育む	14
(3) 地域に開かれた学校づくり	25
(4) 生涯学習の推進	28
(5) 文化・芸術の振興	33
(6) スポーツの振興	38
(7) 青少年の健全育成の推進	42
(6) 平和・人権意識の向上	44
4. 講 評	

1. 教育委員会の点検及び評価について

【目 的】

教育委員会は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要性が高いものと考えられます。また、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実することが求められています。

このようなことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、平成20年4月から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

【富里市教育委員会の点検及び評価について】

富里市においては、教育行政の基本的目標として策定している「とみさと教育プラン」を基準として、点検・評価を実施します。

この点検・評価については、毎年度末時点で点検及び評価を実施し、その次の年度の9月議会へ提出するとともに、ホームページへ掲載するなど公表します。

なお、実施方法等については、随時見直しを行っていく予定としております。

2. 令和6年度富里市教育委員会委員の活動状況

(1) 会議関係

【定例会議】

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	1臨時	2	3	合計
内容	専決	1	2	1	4	0	2	2	1	3	2	0	4	2	24
	議案	3	4	2	2	2	1	3	2	0	2	1	2	5	29
	協議	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	1	0	6
	報告	1	3	3	2	3	5	2	3	1	2	0	1	5	31

(2) その他の主な活動

- 市立幼稚園・小中学校 入園・入学式、運動会・体育祭、卒園・卒業式
- 富里市学校教育研究会定期総会(4月17日)
- 千葉県市町村教育委員会連絡協議会(5月23日)
- 印旛郡市民体育大会巡回応援(7月13日)
- 富里市教職員夏季研修会：不祥事根絶に係る研修会(7月23日)
- 令和6年度富里市中学生議会(10月16日)
- 富里市学校教育研究会公開研究会(11月12日)
- 印旛地区教育委員会連絡協議会研修視察(11月20日)
- 富里市教育委員会・富里市PTA連絡協議会合同表彰式(11月20日)
- 令和7年二十歳を祝う会(1月12日)
- 千葉県市町村教育委員会連絡協議会研修会(1月24日)

3. 令和6年度とみさと教育プランに基づく事業目標と評価

【概要】

令和6年度とみさと教育プランに基づく令和7年3月末時点の評価について、「順調に達成したもの(達成度の評価:A)」は、全82項目中56項目(68.3%)、「概ね順調に達成したものの課題があるもの(達成度の評価:B)」は、全82項目中26項目(31.7%)と、合計で全82項目中82項目(100%)の目標が順調に達成した。

重点項目ごとの達成度の評価は次のとおりである。

重点項目	項目数	順調に達成したもの(A)	概ね順調に達成したものの課題があるもの(B)	達成できなかったが一定の成果を得られたもの(C)	達成できずに成果に乏しいもの(D)
全 体	82	56 (68.3%)	26 (31.7%)	0 (—)	0 (—)
確かな学力を育む	21	11 (52.4%)	10 (47.6%)	0 (—)	0 (—)
健全な心と体を育む	21	16 (76.2%)	5 (23.8%)	0 (—)	0 (—)
地域に開かれた学校づくり	6	5 (83.3%)	1 (16.7%)	0 (—)	0 (—)
生涯学習の推進	11	6 (54.5%)	5 (45.5%)	0 (—)	0 (—)
文化・芸術の振興	9	7 (77.8%)	2 (22.2%)	0 (—)	0 (—)
スポーツの振興	9	7 (77.8%)	2 (22.2%)	0 (—)	0 (—)
青少年の健全育成の推進	4	4 (100%)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
平和・人権意識の向上	1	0 (—)	1 (100%)	0 (—)	0 (—)

学校教育や生涯学習活動等の方法を検討し、工夫しながら実施したことにより、全ての項目において基本目標達成のための取組が順調又はおおむね順調に進行した。しかしながら、取組内の成果に留まり、期待される効果までつながらない事業もみられた。社会環境や多様化する個々のニーズを考慮し、今後、事業の再構築や周知啓発の検討が必要な事業もあった。

今後も限りある予算で最大の効果が得られるよう、より一層の工夫が求められる。プラン策定時には、目標を達成するための方策について、あらゆる手段を考察し、引き続き目標達成に向け各課で取り組んでいく。

1	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	①確かな学力を育てる教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	学力向上に向けた取組	開始年度	平成23年度	
事業内容	「とみの国検定」の内容を学力の下支えとなる語彙力、計算能力の向上を目的としたものに変更するとともに、年度末の検定に向けて年間を通した取組を市内小・中学校全校で実施する。 ・視写・暗唱・100マス計算（小学校）・計算テスト（中学校）			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小学校 合格率 ・視写・暗唱・100マス計算	各テストの合格率80%	視写74% 暗唱81% 計算42%	B	
中学校 合格率 ・視写・計算テスト	各テストの合格率80%	視写60% 計算52%		
(達成度)				
各領域の合格者を平均すると61.8%であった。記憶力を繁用する暗唱や文をまとまりとして捉える力を育てる視写では、ほぼ合格ラインに届いているため、語彙力を向上しながら、記憶力や文章把握能力が向上していると考えられる。計算力は今ひとつであるため、算数・数学科の底上げができるように各学校へ課題を共有し、改善に当たりたい。				
(課題・改善点)				
引き続き、目標値を80%として、各学校へ呼びかけ、学習時間を確保すること、家庭学習への働きかけを強化すること、学習ボランティアとの連携を強化することが課題である。				

2	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	①確かな学力を育てる教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	研究指定による指導方法の改善	開始年度	平成24年度	
事業内容	研究指定を受けた学校は、当該教育課題に関する研究実践を推進し、常に授業の工夫・改善を中心とした研究の推進及び教職員の研修に尽力する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小・中学校千葉県標準学力テストにおける研究教科の平均点の推移	令和5年度と比較してプラスになること	小学校平均 0.8ポイントプラス 中学校平均 0.9ポイントプラス	B	
「ちばっ子学び変革」推進事業研究指定校(富里南中)の全国学力・学習状況調査の結果分析	令和5年度と比較して向上が見られること	・書くことの推移 R5 51.8% R6 62.3% ・無回答の生徒数の大幅減		
(達成度)				
千葉県標準学力テストにおける研究教科（国語・算数）の平均点が、小学校、中学校共に少しではあるもののポイントが向上した。				
研究指定校においても、積極的な授業研究、授業改善が図られ、研究の成果として数値に変化がみられた。				
(課題・改善点)				
今後も児童・生徒の実態を把握、分析し、研修を通して授業についてのより良い工夫、改善を推進していく必要がある。				
また、研究成果報告についても詳細に分析し、今後の研究につなげていく。				

3	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	②教育内容・方法の改善充実	所 管	学校教育課	
事業名	教務主任研修の実施	開始年度	令和3年度	
事業内容	各校の教育課程や学力向上についての市内小・中学校の情報共有を図る。また、各校の実態や課題を確認し、課題解決に向けた見通しが持つことができるように自主研修の場を設ける。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
教務主任研修会の実施回数	市教委が計画した回数を実施すること	3 / 3 回実施	B	
アンケートの実施・分析 対象:参加教務主任・実施時期:年度末	市内小・中学校の80%で活かされたかどうか	アンケート未実施		
(達成度)				
会議の都合上アンケートを行うことができなかったが、教務主任に自主的な研修の場を設定することができた。				
(課題・改善点)				
自主研修が効果的であったか分析を行うため、令和7年度には実施に加え、分析を行うことが必要である。				

4	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	③基礎や基本となる学習への取組	所 管	学校教育課	
事業名	「とみの国」検定の実施（視写・音読・計算）	開始年度	平成23年度	
事業内容	学習の下支えとなる基礎、基本の育成を目的とし、小学校2～6年、中学校1、2年で視写、暗唱、100マス計算を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小学校 合格率 ・視写・暗唱・100マス計算	各テストの合格率80%	視写74% 暗唱81% 計算42%	B	
中学校 合格率 ・視写・計算テスト	各テストの合格率80%	視写60% 計算52%		
(達成度)				
各領域の合格率を平均すると61.8%であった。視写や暗唱の結果から、記憶力や文をまとまりとして捉える力を育みながら、語彙力を向上させることができたが、算数・数学の基礎基本となる計算力は今ひとつであるため、算数・数学科の底上げができるように各学校へ課題を共有し、改善に当たりたい。				
(課題・改善点)				
引き続き、目標値を80%として、各学校へ呼びかけ、学習時間を確保すること、家庭学習への働きかけを強化すること、学習ボランティアとの連携を強化することが課題である。				

5	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	③基礎や基本となる学習への取組	所 管	学校教育課	
事業名	「富里市きょうざん塾」の実施	開始年度	平成23年度	
事業内容	令和版てらこや「富里市きょうざん塾」を夏季休業中に小学校2年生から6年生を対象に5日間実施する。ボランティア団体「きょうざん会」を中心にボランティア講師、高校生ボランティアが行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小学校千葉県標準学力テスト 計算領域の結果	令和5年度と比較し 全学年プラスになること	4割が上昇 （小学校2年生から6年生）	B	
令和版てらこや 「富里市きょうざん塾」への参	参加人数300人	参加人数342人		
(達成度)				
千葉県標準学力検査結果では、前年度比で向上した領域が4割であったが、延べ342名の児童がきょうざん塾に参加し、児童から「自分の課題について知ることができた」、「わからないことがわかって良かった」、「100マス計算のタイムが早くなって良かった」等前向きな意見が多く、自らの課題を知り今後の意欲につながった。				
(課題・改善点)				
継続した取組としてきょうざん塾を含めた「とみの国検定」の反復練習を行い、学習の下支えとなる力を伸ばしていく。				

6	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	④外国語教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	ALT(外国語指導助手)・JTE(外国語指導補助員)の配置	開始年度	昭和60年度	
事業内容	小・中学校にALTやJTEを配置し、英語のコミュニケーション能力の育成や国際理解教育の推進を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
ALT・JTEへの研修実施	9 回	9 回	B	
夏季休業中のALT配置	各中学校1 4 時間	1 4 時間実施		
(達 成 度)				
外国語科教育の質の向上を促進するため、ALTに対しては5回、JTEに対しては4回の研修を実施した。また、夏季休業中の活動についてもALTを配置し、外国語科授業以外でも児童・生徒が、英語で交流する機会を増やした。				
(課題・改善点)				
今後も外国語科教育の質の向上のため、ALT・JTEの研修を継続するとともに、ALT・JTEの柔軟な活用により、効果的に配置を行う。児童・生徒に自信をもたせることを重視しつつ、基礎から丁寧に学力を積み上げることが必要である。実態に即し、英語の基礎力、活用力を育み、中学校卒業時にはCEFR A1レベル相当以上の英語力を身に付けられるよう努めていく。				

7	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	④外国語教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	「英会話の日」推進事業の実施	開始年度	平成19年度	
事業内容	小・中学校において英会話に親しむ活動を行い、外国人とのコミュニケーション活動や異文化に触れる活動を通して国際理解教育の推進を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
英会話の日の実施回数	各学校が計画した回数を実施すること	26/26回	A	
(達成度)				
各校において実態に沿った英会話の日を1～3回計画、実施したことで、外国人とのコミュニケーションの促進を図ることができた。学校によっては、ALTを可能な限り増員し、地域ボランティアも活用することで、より一層、児童・生徒にとっての貴重な機会となるよう計画をしている学校も見受けられた。各校の英会話の日の実践を市公式ホームページに掲載することで、保護者のみならず、地域の方々への情報発信も行った。				
(課題・改善点)				
今後も学校教育課が中心となり意図的、計画的に外国語に触れる機会を設定することで単に児童・生徒が異文化に触れるだけではなく、ネイティブな英語に触れる貴重な機会とし、英語への興味関心、英語力の更なる向上につなげる。				
学校によっては、児童・生徒数が多い為、計画を立てるのが難しいという意見がある。可能な限り多くの児童・生徒が活動に参加できるよう調整する。				

8	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	教育課程全体を通した「ふるさと学習」の推進	開始年度	平成21年度	
事業内容	子どもたちがふるさとである富里を理解し、地域への誇りと愛情を育んでいくために、「ふるさと学習」を発達の段階に応じて教育課程に位置付け、推進する。中学年では副読本を活用して、富里市に関する学習の充実を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小学校3・4年生での ふるさと学習の実施時数	3年生：70時間 4年生：58時間	3年生：70時間以上 4年生：58時間以上	A	
(達成度)				
学習指導要領では、小学校3・4年生において、自分たちの住んでいる身近な地域について学習することになっている。各学校では、これらの地域の学習について目標のとおり社会科等で適切な時間を年間指導計画に位置付け、副読本「わたしたちの富里市」を活用して授業を展開した。				
(課題・改善点)				
教科書や副読本を活用し、ふるさと富里について学習をしているが、地域人材の更なる活用で、理解が深まるようにしていきたい。				

9	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	「ふるさと学習」に関する研修の実施	開始年度	平成21年度	
事業内容	富里の歴史についての理解を深め、今後の指導に生かしていけるよう、夏季休業中に「ふるさと巡検」を実施する。研修会では、専門性の高い生涯学習課職員を講師として、子どもたちへの指導に役立つ情報を提供し、指導者の育成を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
教職員を対象としたふるさと巡検の実施	市内に初勤務となる教職員を中心に16名の参加	16名の参加	A	
(達成度)				
夏季休業中に旧岩崎家末廣別邸を中心に巡検を実施した。市内7校から16名の教職員が参加し、富里市の魅力や歴史を多くの教職員に知ってもらい、市内児童・生徒への指導につながった。				
(課題・改善点)				
富里市の魅力や歴史を教職員自身が知り、市内の児童・生徒に学習を通して還元できるように、より充実した巡検となるようにしていく。				

10	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑤ふるさと学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	地域教材の配付と活用	開始年度	平成14年度	
事業内容	小学校3・4年生の社会科学習で活用するための社会科副読本「わたしたちの富里市」を作成・配付する。この副読本を活用した授業を通して、地域への愛着の増進、故郷である富里の将来を担う人材の育成を目指す。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小学校3・4年生の社会科授業での活用	7校	7校	A	
(達成度)				
各小学校に、社会科副読本「わたしたちの富里市」を配付している。活用状況については、小学校中学年の社会科等において全ての小学校で活用されており、地域への愛着の増進を図った。				
(課題・改善点)				
副読本を効果的に活用しているが、継続的な指導や事業が、地域への愛着の増進につながっているか確認の必要がある。				

11	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進		所 管	学校教育課
事業名	富里市特別支援教育専門員巡回支援事業（巡回相談）の実施		開始年度	平成19年度
事業内容	特別支援教育の専門家チームによる巡回を市内全幼稚園・保育園・認定子ども園（私立も含む）、市立小・中学校で年間2回（計画訪問）実施し、特別支援教育の推進を図る。要請による巡回（要請訪問）がある場合には実施し、園や学校だけでなく家庭における支援の仕方についても助言し、個別支援の充実を図る。			
指 標		令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価
訪問回数		42回	38回	B
要請による訪問回数		5 回	7 回	
(達成度)				
巡回支援事業については、巡回訪問を希望しない園が1園あったが、そのほかの市内各園、各小・中学校については年間2回の巡回を実施した。巡回において、日頃の支援についての悩みや、保護者への対応等、提示された様々な内容について専門家チームによる具体的な助言ができるよう努めた。 また、巡回で得た就学前児の情報についても、保護者の不安軽減、安心した学校生活へつなげられるよう努めた。就学後のフォローアップも実施することができた。				
(課題・改善点)				
巡回で各園、各小・中学校からあげられる対象児童・生徒が多いため「限られた時間内で一人に対する細やかな助言を行う事が難しいが、支援の充実を図っている。今後、要請訪問が増えてくることが予想されるため、専門員確保が課題である。 また巡回訪問を希望しない園が、孤立し支援困難に陥らないよう、引き続き、巡回訪問について呼びかけていく。				

12	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	ライフサポートファイルの活用	開始年度	平成19年度	
事業内容	特別な支援を要する児童・生徒の保護者にライフサポートファイルを配付し、各機関で受けた検査の結果や支援の状況を記録し、相談先や進学先で活用することにより、子どもの状態を的確に把握し、迅速かつ適切な支援を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小・中学校の特別支援コーディネーター対象の研修回数	2 回	2 回	A	
(達 成 度)				
特別支援教育に関する市主催の研修会において、ライフサポートファイルの活用について説明を行った。特別支援学級在籍児童・生徒及び通級指導教室指導対象児童は、ライフサポートファイルを必ず取得することとしており、持っていない場合は、学校教育課から配付した。				
就学相談をとおしても、ライフサポートファイルの活用について保護者へ呼びかけることができた。				
(課題・改善点)				
学校によってはライフサポートファイルについて十分に活用されておらず、個に応じた適切かつ十分な支援が行われていない面が見受けられる。				
今後も研修をとおして、各園、各校、特別支援教育コーディネーター等に向けて、ライフサポートファイルの正しい活用方法について周知するとともに、積極的な合意形成のツールとなるよう就学相談においても活用を保護者へ呼びかける。				

13	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	個別指導補助員の配置	開始年度	平成19年度	
事業内容	特別支援学級に在籍する子どもや通常学級に在籍する特別な支援を要する子どもに対してきめ細かな指導をするために、全ての小・中学校に個別指導補助員を配置する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
配置人数	令和5年度（16人）より増員する	4人増（20人）	B	
(達成度)				
個別指導補助員対象の研修を年間2回実施した。その際に、各校の支援について知る情報共有の場を設け、よりきめ細やかな支援が行えるようにした。 また、希望制ではあるが、特別支援教育に関する研修への参加を呼びかけ、支援についての実践力向上を図ることができた。				
(課題・改善点)				
個のニーズに応じた支援を必要とする児童・生徒が増えてきており、更なるきめ細やかな適切な支援を行うためには、現状の20名では十分とはいえない。 海外からの編入児童・生徒も増加しており、今後、個別の支援を要する児童・生徒が出てくる可能性も考えられる。市内の特別な支援を要する全児童・生徒の安全・安心な学校生活のために個別指導補助員の増員が課題となる。				

14	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑥特別支援教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	発達相談の実施	開始年度	平成18年度	
事業内容	学習上の困難さや生活上の課題を抱えた児童・生徒及び保護者、担任の悩みや心配を解消するために、月2回臨床発達心理士による相談業務を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
相談の実施回数 ※検査を含む	96回	124回	A	
(達成度)				
相談の回数（検査を含む）は、総計100回を超えた。月2回の相談日の相談枠は、常に埋まった状態であった。相談内容に対する臨床発達心理士のきめ細やかな保護者への助言により、定期的に相談の予約を入れる家庭も見られた。				
学校側からの相談依頼も多く、家庭、学校、学校教育課と子どものことを第一に考えた相談業務を実施できた。				
(課題・改善点)				
今後、発達相談が増えることが予想され、現在の相談実施回数では迅速な対応が出来ないことも考えられる。臨床発達心理士確保など相談体制の強化が課題である。今後も保護者のニーズに応じた相談、検査となるよう努めていく。				

15	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑦幼児教育の充実	所 管	学校教育課	
事業名	浩養幼稚園・浩養小学校を核とした幼小連携	開始年度	平成23年度	
事業内容	運動会やバザー、避難訓練、秋祭りなど様々な行事を通して幼稚園児と小学校児童の交流を図る。小1 プロブレムの解消や有効な幼小連携の在り方について研究する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
幼小連携の行事数	5 回以上	20回	A	
(達 成 度)				
浩養小学校、浩養幼稚園を核として、幼小連携を強化することができた。交流行事及び活動回数としては20回を実施。活動の中には、小学校が立案し実施されたものもあった。市内小学校でも年1回、2回と回数は少ないながらも、交流を取り入れている学校も多い。入学前に小学校のことを知っておくことで、おのずと安心感につながり、小1 プロブレムの解消を図ることができた。また、交流を通して不安を抱いた園児についても、その不安を園や学校教育課での就学相談で払拭することで、スムーズな就学につなげることができた。				
各小学校も園との連携が密になることで、就学前の子どもの様子を知ることができた。				
(課題・改善点)				
学校の位置によっては、園から小学校までの距離があるため、幼小連携の計画立案時に移動手段についての課題が残る。また、対応する職員の不足、教育課程編制の調整時期等も課題となる。今後、全小学校で幼小連携を教育課程に組み込むことも考慮して年度末に幼小連携について再度周知するとともに、活動内容を各所学校に確認する。				

16	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑧学校図書館の活用	所 管	学校教育課	
事業名	学校図書館司書の配置による読書活動の推進	開始年度	平成17年度	
事業内容	「富里市おすすめの本」を活用した読書活動を推進し、言語活動の充実を図るための基礎的な能力を養う。 学校図書館司書と各校の図書館担当教諭が連携し、図書室の環境整備を進める。 「図書利用アンケート」を実施し、その結果を授業に活用する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
一人あたりの貸出冊数	小学校60冊・中学校10冊	小学校54.1冊・中学校6.6冊	B	
図書利用アンケートの実施回数	2 回	2 回		
(達成度)				
一人当たりの貸し出し冊数が小学校で90%、中学校で66%であった。令和7年3月はシステムの入替え作業のため、貸し出しを行うことができなかったが、ほぼ達成基準に達していると考えられる。図書利用アンケートは確実に実施することができ、図書室の環境整備を進めることができた。				
(課題・改善点)				
令和7年3月は、システム入れ替えのため、図書の貸し出しを行うことができなかった。担当と連携を密にし、スムーズな貸し出しを行うことができるようにシステムを整えていくことが課題である。				

17	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	幼稚園教員の指導力向上研修	開始年度	平成19年度	
事業内容	市内各幼稚園の様子を参観をし、活動内容や支援方法、家庭との連携等について助言を行う。 夏季の研修会において日々の実践につながる研修を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
研修回数	1 回以上	1 回実施	A	
夏季研修会	1 回	1 回実施		
(達 成 度)				
家庭の養育力の差、家庭との信頼関係づくり、情報共有の難しさ等、園と家庭との連携に関する課題については様々である。研修を実施することで子どもの多様化について、また個に合った支援のあり方について貴重な時間を設けることができた。 希望研修においても、各園の出席率は高まっており、専門知識への興味関心、実践力向上についての意識の高まりも感じられる。				
(課題・改善点)				
引き続き保育の質の確保が課題となる。 発達、言語家庭環境が多様であり、一人ひとりに合った支援が求められているが、教職員の経験、専門性に差があり、保育の質の均一化も課題である。子どもへの支援のみならず、保護者支援としての園の機能強化を関係機関との連携のもと図っていく必要がある。				

18	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	若年層の教員研修	開始年度	—	
事業内容	5 年目までの教諭・講師を対象に指導主事が授業観察及び指導を行い、授業力向上を図る。			
指 標	令和 6 年度目標	令和 6 年度実績（実施率）	総合評価	
指導回数	各担当の計画した指導回数を達成する（月 1 回を目安）	30/30回	A	
(達成度)				
6 人の指導主事が指導に当たり、一学期に 2 回、二学期に 2 回、三学期に 1 回行い、一人当たり 5 回行った。一人の若年層教員に対して、継続的な指導を行うことができた。書面でのフィードバックや面談指導を重ねることにより、教員の困り感に合わせた指導を行うことができた。				
(課題・改善点)				
回数としては十分に行えているが、指導が若年層に対して確実な力となるようにフィードバックに力を入れていくことが課題である。				

19	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑨教職員の資質の向上	所 管	学校教育課	
事業名	教職員夏季研修会	開始年度	平成16年度	
事業内容	市立小・中学校の教職員が、4 講座のいずれかにおいて専門的な研修（希望制）を受けることで、実践的な指導力の向上を図る。			
指 標	令和 6 年度目標	令和 6 年度実績（実施率）	総合評価	
開催講座数	4 講座	4 講座	A	
(達成度)				
体調等やむを得ない事情の教職員を除いて、市立小・中学校の全教職員が、4 講座のいずれかにおいて専門的な研修（希望制）を受けることで、実践的な指導力の向上を図ることができた。				
(課題・改善点)				
今日的な課題に合わせて講座を開設し、教員の実践力を高めることができるように工夫を重ねていくことが必要である。				

20	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑩ICTを活用した学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	ICTに係る教員の指導力向上に向けた取組	開始年度	令和3年度	
事業内容	市内小・中学校教職員対象にICT利活用の研修会を実施することで、ICTを活用した授業力、児童・生徒へのICT活用指導力の向上を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
ICT利活用研修の実施回数	年2回	2回実施	B	
(達成度)				
校務支援システムの使い方や学習支援システムの研修会を行い、市内着任者や、ICT活用に課題を感じている教員が受講した。教員の不安を解消し、働き方改革や、児童・生徒の実態に合わせた指導を行うことにつなげることができた。				
(課題・改善点)				
令和7年度には、ロイロノートやリアテンドントなど効果的なソフトウェアが本格導入となる。市内教職員に利用方法を周知し、利用率を高めることができるように研修を充実していく。				

21	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(1) 確かな学力を育む			
	⑩ICTを活用した学習の推進	所 管	学校教育課	
事業名	ICTの活用に向けた取組	開始年度		
事業内容	各校においてICT支援員が週1回程度訪問し、児童・生徒の授業におけるICT活用の環境整備や授業サポート等を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
ICT支援員の各校への訪問回数	週1日	週1日＋ 必要に応じて対応	A	
(達成度)				
計画に合わせて活動し、必要に応じて各校対応した。ICT通信とともに活動報告をし、児童・生徒のICT機器活用状況の向上に大きく貢献した。				
(課題・改善点)				
ICT支援員が各校の補助に当たっているが、授業の中で更にICT支援員を活用していきたい。広く授業サポートが行えるように、活用を促していきたい。				

22	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	①豊かな心の育成	所 管	学校教育課	
事業名	道徳教育の充実	開始年度	平成23年度	
事業内容	小・中学校において道徳教育推進教師を中心に、創意工夫した授業を展開する。 また、授業を地域に公開し、地域・家庭と連携し道徳教育の充実を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
道徳の時間を要とした各校道徳推進教員を核とした道徳教育の推進	年間1回	年間1回	B	
(達成度)				
市内小・中学校へ中堅教諭パワーアップ研修、自主研修、若年層教員授業参観等において、道徳科授業の効果的な進め方、活用できる資料等について助言した。				
各校、道徳推進教員を核とした道徳教育の充実を図った。授業参観、自主研修、若年層研修を活用し道徳の授業公開を実施することができた。				
(課題・改善点)				
教員の指導力のばらつきに課題が残る。				
道徳教育に特化した研修を更に充実させ教師の指導力を向上させる。児童・生徒の家庭環境、社会背景の多様化により価値観が異なり、教育現場での道徳教育に対する理解形成に難しさを感じる。				
引き続き、児童・生徒同士の価値観を尊重し、議論を通じた道徳的判断を形成する力を育成する。				

23	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	①豊かな心の育成	所 管	学校教育課	
事業名	人権教育の推進	開始年度	平成25年度	
事業内容	市民課と連携を図り、人権擁護委員による「人権教室」を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
各校3年に一度実施（輪番制）	各校3年に一度実施する	市内2校で実施 （富里南小・日吉台小）	A	
(達成度)				
人権は「誰もが誰をも認め、過ごしていける場」であることが大切である。そのためにも日常生活の中で人権意識を高めていく必要があることを教員集団が認識していくことを目指す。				
(課題・改善点)				
児童・生徒の人権を守っていくためにも教職員の人権意識を高める必要がある。「年4回」行われる生徒指導担当者研修で、中心となる教員に発信をし、子どもたちの育成につなげていく。				

24	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	②健やかな体の育成	所 管	学校教育課	
事業名	体力向上に向けた取組	開始年度	平成25年度	
事業内容	体力調査を基に市内の児童・生徒の体力分析を行い、市体力向上研究部で協議し、より効果的な体力向上の取組を検討する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
県体力テストで 県平均以上となる項目	6 割	4 割	B	
(達成度)				
特に学年が上がっていくにつれて、県平均に満たない項目が増えている。しかし、多くの項目で県と市の記録の差が小さくなっている。				
(課題・改善点)				
令和7年度は日大連携の一環として、運動プログラムを高学年を対象に実施する。また、スポーツ鬼ごっこを小学校3年生まで拡大することで、低学年の段階から実態に応じた手立てを講じていく。				

25	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	長欠者を減らすための関係機関の連携	開始年度	令和5年度	
事業内容	市内生徒指導・長欠担当者研修会において、関係機関の方を講師に招いて研修会を実施し、関係機関との連携方法の理解を深める。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
関係機関の方を 講師に招いた研修会	年1回の実施	夏季休業中に実施	A	
(達成度)				
訪問相談担当教員と北総教育事務所生徒指導専任指導主事を講師に、研修会を実施した。訪問相談担当教員は市内10校の教員対象に長欠児童・生徒の支援方法について講話を行った。また、北総教育事務所生徒指導専任指導主事からは生徒指導主事、主任対象に行った。				
(課題・改善点)				
学校内でできる部分と外部の手を借りる部分のバランスがなかなかとれていない部分があった。関係機関とつなげるための調整役として、役割を果たせるよう努める。				

26	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	長欠者を減らすための取組	開始年度	平成27年度	
事業内容	市内長欠・不登校児童・生徒に関する市内10校の生徒指導・長欠担当者とのヒアリングを毎月実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
月1回ヒアリングを実施	月1回の実施	月1回	A	
(達成度)				
令和5年度の長欠率は11.5%、令和6年度の長欠率は10.1%と△0.9%であった。少しずつ長欠率は減ってはいるが、数字だけで追うのではなく、どのような対応をしたかを大切に、今後に生かしていきたい。				
(課題・改善点)				
不登校児童・生徒が、自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せる校内体制を構築していく必要がある。また、学校以外の学ぶ場も選択肢とすることで、個々の心の豊かさにつなげていきたい。				

27	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	ヤングケアラーへの対応	開始年度	令和5年度	
事業内容	校長会議、教頭会議、生徒指導担当者会議等の機会に、ヤングケアラーに対する理解の促進を目的とした研修会を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
研修実施回数	年1回の実施	年2回実施	A	
(達成度)				
4月の校長会議、教頭会議、8月の生徒指導会議において実施した。管理職への研修を通して、教職員へのヤングケアラーの理解が深まってきている。児童・生徒の観察や家庭における状況把握、さらにはスクールカウンセラーや訪問相談員による教育相談体制も充実してきている。ヤングケアラーということを認識している教員が増えてきている。				
(課題・改善点)				
ヤングケアラーの子どもたちは自分たちが今ある現状を当たり前のこととしている。自然と手伝っているという状況を変え、相談ができる大人がいる環境をより一層整え、自分の苦しさをしっかりと外部に発信できる環境としたい。				

28	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	教育支援センター「ふれあいセンター」	開始年度	平成7年度	
事業内容	ふれあいセンター（教育支援センター）で不登校の児童・生徒の居場所づくりを行うとともに、学校復帰に向けての取組を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
ふれあいセンターへの出席率	50%	65.5%	A	
月一度以上学校に登校できた児童・生徒の状況	50%	65.5%		
(達成度)				
学校、ふれあいセンター、フリースクール等使い分けている児童・生徒もいることから、一人一人に合わせながら取り組んでいることがプラスに働いている。				
(課題・改善点)				
長欠児童・生徒への支援の方向性が変わり、「必ずしも学校に登校するだけを目指としな				
い。」とする通知が国から出されており、ふれあいセンターは長欠児童・生徒の居場所として、				
大きな役割を果たしている。一人一人のバランスを大切にしながら、学校とのつながりを強化し				
ていきたい。				

29	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	いじめ問題の実態把握と取組	開始年度	平成24年度	
事業内容	いじめの実態調査を行うとともに、未然防止のための教育相談や教員の研修を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
いじめの解消率	100%	96%	A	
いじめに関する研修の実施回数	3 回	3 回		
(達 成 度)				
研修を通して、市内教職員へのいじめの定義への解釈が定着してきた。また、いじめ認知後の早期対応・早期発見による解消率に努めることを確認した。引き続き、学校からのいじめ状況報告をしてもらい、学校と連携しながらいじめの解消を図っていく。				
(課題・改善点)				
毎学期実施しているいじめ状況調査において、いじめ認知の在り方が少しずつ浸透してきている。また、いじめについては学校体制で取り組み、市内全ての児童・生徒が安全・安心に学校へ登校できるように、いじめに対する職員の意識を高めていく必要がある。				

30	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	③不登校やいじめ等への対応	所 管	学校教育課	
事業名	教育相談の実施	開始年度	平成18年度	
事業内容	課題を抱える保護者や児童・生徒に早期に対応するため教育相談員を配置し、教育相談活動を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
家庭訪問数	200件	503件	A	
相談件数	750件	783件		
(達成度)				
2名の教育相談員が家庭訪問や教育相談活動を実施。各学校のニーズに応じた形で実施した。				
(課題・改善点)				
教育相談のニーズが年々増加しており、内容也多岐にわたっている。教育相談員のみならず、各学校の教育相談体制を強化させていく必要がある。				

31	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	④情報モラル教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	情報モラル教育の推進	開始年度	平成21年度	
事業内容	教員向けの情報モラル教育・授業プログラムを提供し、子どもたちが携帯電話等を介したトラブルに巻き込まれないように、子どもたちやその保護者を対象とした「ケータイ・スマホ出前授業」を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
情報モラル教育に関する授業 実施校※外部講師も含む	市内全小学校（7校）	全校実施	A	
情報モラル教育に関する授業 実施校※外部講師も含む	市内全中学校（3校）	全校実施		
(達成度)				
令和6年度は中学校を含めた全校が実施した。市商工観光課と協力し実施したものや、千葉県の情報モラル教室を利用した学校があるが、全体を通して情報リテラシーの向上を図ることができた。				
(課題・改善点)				
指導は行っているが、今日的な課題が日々更新されており、SNSなどのネットトラブルが後を絶たない状況である。より児童・生徒が当事者感を持つことができるよう指導の内容を更新していく必要がある。				

32	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	防犯・不審者情報の適宜・適切な配信	開始年度	平成19年度	
事業内容	不審者情報等を速やかに小・中学校、内容により、幼稚園・高校等へ配信する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
「マチコミ」システムの 加入世帯数	100%	97%	A	
(達成度)				
年度初めに「マチコミ」システムの利用を各学校に呼びかけているため、加入世帯が高い割合になっている。児童・生徒のみならず、保護者にも注意喚起をすることができている。				
(課題・改善点)				
各学校へ「マチコミ」の活用方法を指導していくとともに、保護者への加入促進を引き続き行っていく。				

33	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	防災及び交通安全教育の充実	開始年度	—	
事業内容	地震や風水害等の災害に対する意識を高めるため、避難訓練等の防災教育の充実を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
防災マニュアルの作成	市立幼稚園、小・中学校で作成	全園・全校で作成済み	A	
避難訓練の実施	市立幼稚園、小・中学校で1回以上実施	全園・全校で1回以上実施		
(達成度)				
各市立幼稚園、小・中学校で防災マニュアルを作成し、防災訓練を実施した。				
(課題・改善点)				
防災マニュアルについては、周辺環境や時代の変化に合わせて、毎年度見直しをする必要がある。また、避難訓練については、各学校の実態に即した計画・実施をしていく必要ある。				

34	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑤安全教育の推進		所 管	学校教育課
事業名	学校における防犯教室の実施		開始年度	—
事業内容	防犯意識を高めるため、市立幼稚園、小学校において、防犯技能を身につけるための防犯教室を開催する。			
指 標		令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価
防犯教室の実施 ※不審者対応避難訓練等も含む		市立幼稚園、小・中学校で 1回実施	全園・全校で1回実施	A
(達成度)				
防犯教室、避難訓練も含めて、日頃から防犯対策の指導を行っている。いつ何時起こるかわからないことなので継続した指導を行っていく。				
(課題・改善点)				
年度明けの早い時期から、防犯教室や防犯訓練を実施していく必要がある。				

35	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑥ジョイント・スクール推進事業の取組	所 管	学校教育課	
事業名	ジョイント・スクール推進事業の充実	開始年度	平成26年度	
事業内容	既存の3つの中学校区をそれぞれ1つの学園として、現行の6・3制を基盤に、義務教育9年間を見通した教育を行う。また、各学園において、9年間の児童・生徒の学びと成長、発達を考慮し、地域の特色を生かした小・中連携、交流活動を積極的に推進する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
各学園の連携を図るため、推進会議を設ける。	年3回	年3回	B	
富里市小中連携共通生徒指導4項目の達成度	各項目80%	4項目平均68.5%		
(達成度)				
推進会議を年3回実施し、学園ごとの取組状況を共有することができた。また、生徒指導4項目について小中での共通生徒指導事項を確認した。				
(課題・改善点)				
共通生徒指導4項目については、各校の取組の仕方や児童・生徒個々の評価基準をいかに揃えていくかが課題である。1回目の推進会議で小中連携（ジョイント）の目的や取組を全体で確認し、地域の特色を生かした小中連携・交流活動を推進していく。				

36	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑦次世代の子ども達の健康を推進するための対応	所 管	学校教育課	
事業名	小児生活習慣病予防のための取組	開始年度	令和4年度	
事業内容	小児生活習慣病予防のための研修会を講師を招いて実施し、教職員の意識啓発に努める。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
中学校2年生における 小児生活習慣病予備軍の数値	現在の7割から削減する	B1・B2(要指導) 63.2% E(要医療) 11.0%	B	
(達成度)				
要指導は令和5年度と比較して△4.1% 要医療は令和5年度と比較して＋1.3% 例年要指導は60%台、要医療は10%未満であるが、令和6年度は要医療が10%を超えた。				
(課題・改善点)				
項目ごとの評価を行い対策を検討する。 要医療者に対しては個別のアプローチで家庭と連携、要指導者に対しては保健だより、給食だよりなどを通して意識啓発に努める。				

37	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	安全な食材選びと衛生管理の徹底	開始年度	昭和48年度	
事業内容	学校給食に使用する食材について、納品時の検収の徹底に努め、食材や調理器具等の細菌検査を定期的に実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
検便細菌検査の実施回数	年24回（月2回）	年24回	A	
食品細菌検査の実施回数	年2回	年2回		
(達成度)				
学校給食衛生管理基準に基づき、給食従事者の衛生管理では、日常の健康管理とともに定期的な細菌検査等を実施し、その状態によっては代替職員等による対策を講じた。 食品に関しては、検収時の点検項目全てを記録し、肉・魚・野菜類を分類して保管するなど相互汚染を防ぐとともに、調理器具等の細菌検査を実施し、品質や衛生管理の徹底を図った。				
(課題・改善点)				
検査の実施回数は、計画に沿って実施しており、衛生管理や食材納品時の検収については、安全安心な給食提供のため、引き続き細心の注意を払い、徹底して行っていく。				

38	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	地場産物の活用の拡大	開始年度	昭和48年度	
事業内容	豊かな農産物に恵まれている富里市の利点を生かし、新鮮で生産者の顔の見える地場産品を給食へ積極的に活用する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
市内産の精米の使用割合	100%	100%	B	
市内産の生鮮野菜・精肉の使用割合	50%	47.6%		
(達成度)				
主食の一つである米飯については、全て富里産コシヒカリの一等米を使用しており、生鮮野菜や精肉も地元産を積極的に活用した。				
(課題・改善点)				
安全・安心と購入経費のバランスが適切になるよう配慮しながら、米以外の食材についても地場産品の一層の活用を図る。				

39	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	食に関する指導の推進	開始年度	昭和48年度	
事業内容	児童・生徒を対象に朝ごはんの重要性、食事のマナー、好き嫌いをなくすことや生活習慣病予防などをテーマに、発達段階や学習内容を考慮して系統的な食育の授業を行うほか、食を通じて地域を理解することや食文化の継承など食に関する指導を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
食育指導等の回数	年84回	年86回	A	
給食だより等の配布	25回	26回		
(達成度)				
「富里市教育委員会食育推進プラン」に基づき食育を行っており、栄養士の授業はおおむね好評である。食育授業後はクラスに留まり、給食に関する指導を行った。 また、既存の広報媒体（給食だより・献立表）の使用や、日々の給食献立毎にワンポイントアドバイスを作成し、児童・生徒自身による校内放送を通じて食に対する興味を抱かせるなど、食に対する意識を高めるよう指導した。				
(課題・改善点)				
栄養士が作成した食育DVDを使用する授業は行っているが、今後はタブレット端末を活用したデジタル教材の導入など、より効率的な手法で更に食育の浸透を図っていく。				

40	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑧安全に楽しく楽しむ食育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	食体験を豊かにする献立の充実	開始年度	昭和48年度	
事業内容	給食献立に、行事食や伝統食、季節の食材を使用するメニューを積極的に取り入れることで、食文化の継承や、豊かな食体験の場としての給食時間を提供する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
行事食等の提供回数	年24回	年30回	A	
(達成度)				
学校給食法では、我が国の各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めることが、目標の一つとなっている。 月ごとに定期に行事食・伝統食等を提供することで、食生活が食に係る人々の様々な活動の上に成り立つことの理解につながった。				
(課題・改善点)				
食文化には、食材・調理・食べ方等が含まれており、地元の食と比較し、どのような違いや特徴があるかなど、食を通じて更に他地域の文化や歴史への興味や理解を持つことにつなげたい。				

41	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑨学校施設の整備	所 管	教育総務課	
事業名	学校施設の既存不適格事項への対応	開始年度	令和2年度	
事業内容	法令改正等により、既存不適格となっている小学校のエレベーターについて、改修工事を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
浩養小学校のエレベーター 既存不適格改修工事の実施	1 校	1 校	A	
(達成度)				
浩養小学校のエレベーター既存不適格改修工事は、7月契約により施工業者を決定し、令和6年11月に改修工事が完了した。				
(課題・改善点)				
当該改修工事の完了により、市内小・中学校の学校施設の既存不適格事項への対応は全て完了となった。				

42	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(2) 健全な心と体を育む			
	⑨学校施設の整備	所 管	教育総務課	
事業名	学校施設の修繕・工事及び安全点検の充実	開始年度	平成19年度	
事業内容	小・中学校施設の維持管理に係る修繕及び工事について、緊急性や優先度を考慮の上、迅速に対応する。 また、施設等の安全点検を行い、安全性を確認するとともに、危険箇所については修繕等を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小学校施設・設備の修繕・工事 及び安全点検の実施	7 校	7 校 修繕:38件、工事:12件	A	
中学校施設・設備の修繕・工事 及び安全点検の実施	3 校	3 校 修繕:20件、工事:2 件		
(達 成 度)				
学校施設の修繕・工事については、不具合の現状や学校活動への影響等を確認し、緊急性や優先度を考慮の上対応した。				
学校施設の安全性の確認については、特定建築物定期調査における指摘事項を精査し、各学校からの報告・要望等を踏まえ施設の現状把握に努めた。また、各学校が実施する遊具の安全総合点検に同行し、点検項目について確認した。				
(課題・改善点)				
建築後40年を超える校舎が半数を占めることから、予防・維持修繕に努める。				
今後も点検結果及び学校要望等による危険箇所の修繕・工事について、優先度を考慮した上で予算要求を行うとともに、危険箇所が発見された場合は、児童・生徒の安全確保のため、早急に対応する。				
さらに、富里市校舎等改修改築環境改善計画について、関係課と協議をしながら見直しを検討していく。				

43	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	①学校開放や地域公開	所 管	学校教育課	
事業名	学校での地域公開授業の実施	開始年度	令和2年度	
事業内容	保護者や地域の方々に授業や学校行事を積極的に公開し、社会に開かれた教育課程を編成することで、学校だけでなく地域全体で子どもを育てていく。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
地域や保護者の方々に授業や学校行事を3回以上公開した学校数	10校	10校	A	
(達成度)				
保護者や地域の方に対し、各校で積極的に授業や学校行事を公開することができた。				
(課題・改善点)				
今後もより多くの方に参観や訪問をしていただけるように、HPや学校便り等で周知していく。				

44	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	①学校開放や地域公開	所 管	学校教育課	
事業名	学校支援ボランティア活用の推進	開始年度	平成20年度	
事業内容	学校の教育活動や環境整備について、保護者及び地域の人材がボランティアとして活動することを支援する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
保護者及び地域の人材を活用した活動回数	10校	8 校	B	
(達成度)				
保護者及び地域の人材を活用した活動回数は72回実施した。図書利用や環境整備が主である。				
(課題・改善点)				
引き続き保護者への周知活動を学校と協力して行っていく必要がある。				

45	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	②コミュニティ・スクールの推進		所 管	学校教育課
事業名	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の推進		開始年度	
事業内容	教育委員会及び学校の校長の権限と責任の下、学校に在籍する児童・生徒の保護者等の地域住民の学校運営への参画、支援及び協力を促進することにより、学校運営の改善及び児童・生徒の健全育成に取り組む。			
指 標	令和6年度目標		令和6年度実績（実施率）	総合評価
学校運営協議会開催回数	各学校運営協議会 年3回		各学校 年3回実施	A
(達成度)				
各小・中学校で、計画通り学校運営協議会を実施し、学校の内側からは見えない課題を明確にすることができた。また、学校運営協議会から地域へ呼びかけることで、地域と学校がより連携することにつながった。				
(課題・改善点)				
令和7年度も学校を中心とした学校運営協議会の開催のための連絡調整を行っていく。				

46	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	②コミュニティ・スクールの推進	所 管	学校教育課	
事業名	学校評価の実施と情報提供	開始年度	平成15年度	
事業内容	地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めていくことを目的として、各幼稚園、小・中学校において学校評価を実施し、学校・園の改善に努める。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
自己評価の実施と公表	2園、10校	2園、10校	A	
学校関係者評価の実施と公表	2園、10校	2園、10校		
(達成度)				
学校評価を実施し、自校・自園の課題を明確にし、より良い教育活動に向けて改善を図ることができた。				
(課題・改善点)				
自己評価の開示を全ての園、学校が行った。引き続き、保護者の声に真摯に耳を傾け、開かれた教育課程を実現し、地域とともに築き上げていく学校を目指していく。				

47	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	③地域一体のキャリア教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	中学生を対象とした「わくわくWorking！（富里市職場体験学習）」の充実	開始年度	平成18年度	
事業内容	中学生を対象に、職業人による講和や体験活動等を行い、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や職業観を育てる。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
中学校3校実施	中学校3校実施	中学校3校実施	A	
(達成度)				
職業人による講話や体験等、学校の規模によっても変わるがそれぞれの学校で行った。また、NPO法人の協力により、キャリア教育に力を入れた学校もあった。				
(課題・改善点)				
令和7年度も引き続きNPO法人との連携のもとで行う学校もあるので、子どもたちにとって社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や職業観を育てられる取組を行う必要がある。				

48	目標	1 次代を担う人材を家庭・地域社会とともに育成する学校教育の推進		
重点項目	(3) 地域に開かれた学校づくり			
	③地域一体のキャリア教育の推進	所 管	学校教育課	
事業名	小学生を対象とした「ゆめ・仕事びったり体験（地域密着観察学習）」の実施	開始年度	平成21年度	
事業内容	小学校中学年、高学年を対象に、職業人による講和や体験活動等を行い、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や職業観を育てる。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
小学校7校実施	小学校7校実施	小学校7校実施	A	
(達成度)				
職業人による講話や体験等、学校の規模によっても変わるが、それぞれの学校で社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や職業観を育てるために効果的な活動を行うことができた。				
(課題・改善点)				
単に実施するだけでなく、明確な形を作っていく必要がある。講話や体験等、効果的な学習方法を考えていく必要がある。				

49	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	①いつまでも学べる環境整備	所 管	生涯学習課	
事業名	学びを通じた人づくり	開始年度	平成18年度	
事業内容	学んだことを自らの力とし、地域のために発揮し、生涯にわたって輝き続ける人材の育成を目的に創年セミナーを開催する。 また、個人が習得した技術・知識を広く活用してもらえるようボランティア講師としての登録を促し、登録された講師を必要としている市民、団体へ紹介し、社会活動への参画を通じて、連携・協働のまちづくりの応援をする。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
創年セミナー開催回数	16回	16回	A	
創年セミナー受講生の満足度	80%	90%		
(達成度)				
健康、創作、体験、歴史、音楽、芸術、芸能、文化、環境、視察の10の項目を基本に講座を組み立て、受講者の学びを支援した。受講記録や受講者アンケート調査での評価は90%と高かった。また、受講者が学んだことや自分の持つ技術を地域で活用することができた。				
(課題・改善点)				
創年セミナーの講座内容については、受講者のアンケート調査や受講記録を基に、受講後に地域で伝えることができるように構成している。引き続き講座開催に当たっての情報収集を行い、社会で活躍できる人材の育成に努めていく。				

50	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	①いつまでも学べる環境整備	所 管	生涯学習課	
事業名	「とみっこ大学」の実施と歴史・文化学習	開始年度	平成29年度	
事業内容	様々な創作活動、理科・科学実験、環境学習など子どもの学ぶ力、生きる力を育む体験学習を中心とした「とみっこ大学」を実施する。 また、小学5年生以上を対象に岩崎久彌氏や岩崎家にゆかりのある旧岩崎邸庭園などの東京都内にある施設を訪れ、岩崎家が社会貢献を行ってきたことなどを学習する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
とみっこ大学参加児童の満足度	80%	80%	A	
ふるさと富里再発見参加児童の満足度	80%	97%		
(達成度)				
歴史文化学習に特化した「ふるさと富里再発見」では、岩崎久彌に関連することなどを学び、学んだことを新聞にまとめ発表を行った。 参加児童へのアンケートでは、両事業とも高い満足度であった。				
(課題・改善点)				
講座内容については、参加児童及び保護者のアンケートを基に、より学習意欲を刺激できる内容へと見直していく。				

51	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	②学びの成果を活かす環境づくり		所 管	生涯学習課
事業名	学びを通したまちづくり		開始年度	平成18年度
事業内容	いつでも、どこでも、誰でもがともに学びあうまちづくりを目指し、知識、技能及び技術を有する者の能力を活用することにより、市民一人ひとりの生涯学習を支援し、豊かな地域社会をつくることを目的として、富里市生涯学習アシスト事業を実施する。			
指 標	令和6年度目標		令和6年度実績（実施率）	総合評価
事業の周知	2 回		1 回	B
(達成度)				
市公式ホームページに、新たにアシスト事業の情報を載せるなど、事業の周知に努めた。実施に結びつけることはできなかったため、より魅力ある周知について、検討する必要がある。				
(課題・改善点)				
事業活用につながるよう、周知方法の見直しや内容の再構成などを行っていく。				

52	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	③公民館事業の充実	所 管	生涯学習課	
事業名	サービスの適正化	開始年度	令和5年度	
事業内容	公民館施設の利便性向上、利用拡大に努める。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
予約システム利用率	90%	84%	B	
(達成度)				
予約数2,217件のうち1,867件が施設予約システムの利用であった。窓口来庁での予約者についても、本システムについて周知し、一緒に操作するなど、利用者の拡大に努めた。				
(課題・改善点)				
今後も引き続き、本システムの定着・利用者数の増加を図る。				

53	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	④図書館資料の整備	所 管	図書館	
事業名	図書館資料等の充実	開始年度	平成14年度	
事業内容	資料及び情報の収集・提供に当たっては、市民の学習活動を適切に支援するため要望に応えられるよう努めていくとともに図書館機能に生涯学習機能を加え、それぞれの機能が活かされるよう事業の実施に努める。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
入館者数	196,000人	194,008人	B	
貸出冊数	153,000冊	153,111冊		
(達成度)				
図書館資料の利用促進の取組として「おはなし会」や親子を対象とした講演会等の実施による本との出会いの創出やギャラリー展示による施設の活用など、各種事業に取り組んだ成果として、入館者数、貸出冊数については、令和5年度実績を上回る結果となり、おおむね目標値を達成することができた。				
(課題・改善点)				
利用者サービスの向上を目指し図書館サービスの基本である資料の収集・提供機能の拡充・強化が必要である。				
また、学校図書室との連携においても、資料の充実が課題となっていることに加え、日中の来館が難しいビジネスパーソンや子育て・介護などをされている方、身体的に来館が困難な方に対してのサービスがないといった課題解決を図るため電子書籍システムの導入を検討する。				

54	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑤図書館（とみらいテラス）事業の充実	所 管	図書館	
事業名	情報・芸術・文化の発信拠点づくり	開始年度	令和4年度	
事業内容	文化・芸術を含めた情報発信拠点として、施設の利活用の推進を図る。包括連携協定を結んでいる日本大学藝術学部との連携による展示や、生涯学習課との連携による展示等で、市民が芸術・文化と触れ合える場を創出し、利用者層の拡大を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
鑑賞者数	20,000人	35,836人	A	
(達成度)				
芸術鑑賞事業による展示、日本大学藝術学部による展示や第1回目となる「富里映画祭」、成田国際空港株式会社と連携して実施した「成田国際空港給油施設パイプライン展」など、多種多様な芸術・文化と触れ合える機会を設け、鑑賞者数については、令和5年度実績を上回る結果となり目標を達成することができた。				
(課題・改善点)				
生涯学習課事業である芸術鑑賞との連携が課題であり、年間の展示や映画祭などを複合的かつ計画的に企画・運営するために、ギャラリーイベントを図書館で管理する。 また、鑑賞者数の獲得及び市民満足度向上のために、今後も日本大学藝術学部や成田国際空港株式会社との連携を図る。				

55	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑤図書館（とみらいテラス）事業の充実	所 管	図書館	
事業名	子ども向け事業の充実	開始年度	平成14年度	
事業内容	読書習慣は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠くことができないものであり、早期での読書習慣と図書館の利用習慣につながるよう事業を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
ブックスタート事業達成割合 （参加者数/受診対象者数）	94%	91.6%	B	
ブックトリップ事業達成割合 （達成者数/全児童・生徒数）	30%	53.1%		
(達成度)				
ブックスタート事業については、健診未受診者が多かったことにより目標値には達しなかったが、読み聞かせボランティアと共に順調に事業を行うことができた。 ブックトリップ事業については、令和2年度から内容の見直しを行ったことにより、以降増加傾向であり、令和6年度も令和5年度実績を上回る結果で目標を達成することができた。				
(課題・改善点)				
未受診者のフォローとしては後日、健康推進課による個別訪問による対応として連携を図り、ブックスタート事業の推進を図る。 また、ブックトリップ事業については、学校との連携を図り内容等の見直しも含め、事業を充実させていく。				

56	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑤図書館（とみらいテラス）事業の充実	所 管	図書館	
事業名	親子読書支援の充実	開始年度	令和4年度	
事業内容	親子が本と触れ合える場としての役割を強化する。親子が様々な本と触れ合う機会をサポートし本に親しみ、親子の読書活動と図書館利用を推進する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
児童書の貸出冊数	33,000冊	36,441冊	A	
親子読書支援コンシェルジュ支援件数	2,300件	3,527件		
(達成度)				
親子読書支援コンシェルジュによる親子へのサポートは、順調に実施できた。今後も定期的に講座などを実施し、内容の充実を図っていく。				
(課題・改善点)				
多くの親子に利用していただけるように事業の周知に努め、親子の読書支援を通じて貸出冊数や施設の利用促進につながるよう取り組んでいく。				

57	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑤図書館（とみらいテラス）事業の充実	所 管	図書館	
事業名	学校図書室等への支援	開始年度	平成14年度	
事業内容	図書館が所蔵する団体貸出用資料を各小・中学校、幼稚園、こども園に配送し貸出を行う。身近に本とふれあえる機会の提供と読書活動を支援する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
延べ貸出団体数	150件	141件	B	
貸出冊数	7,000冊	6,929冊		
(達成度)				
団体貸出用図書をテーマごとに分けたセットをつくり、よむよむ便は各小学校へ年3回、中学校定期便は中学校へ年2回、らっこ便は幼稚園、こども園へ年2回、学童便は希望があった学童クラブへ5回、調べ学習利用等に加え更なる利用促進を目的に図書館資料活用便の配送・貸出しを行なった。目標値には届かなかったがおおむね順調に実施できた。				
(課題・改善点)				
受け入れ側の負担などの課題もあるが、今後も学校図書室等からの意見を参考に事業に取り組み、資料の活用を促進していきたい。				

58	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	(4) 生涯学習の推進			
	⑥社会教育施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	公民館施設の適正な維持管理	開始年度	平成24年度	
事業内容	空調設備をはじめ、老朽化した設備の修繕を計画的に行い、安定した公民館運営を図る。			
指 標		令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価
工事件数		3 件	5 件	A
設備不備による休館日数		0 日	0 日	
(達成度)				
公民館の消防設備(1 件)、講堂系棟の空調設備の修繕(4件)を行い、安定した運営に努めた。				
(課題・改善点)				
老朽化に伴い、修繕箇所及び修繕費が増加していることから講堂系統の空調機の更新が必要である。 今後も公民館の利用者等が快適に使用できるよう維持管理に努める。				

59	目標	2 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進		
重点項目	（４）生涯学習の推進			
	⑥社会教育施設の整備	所 管	図書館	
事業名	図書館施設の適正な維持管理	開始年度	平成15年度	
事業内容	利用者が安全・快適に施設を利用できるように、定期的を実施している点検等の結果を踏まえ、緊急性に応じて適切に修繕工事を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
修繕件数	10件	18件	A	
(達成度)				
修繕については、当初予定していた箇所に加え、早急な対応が求められる案件があったことにより、全体で18件の修繕を実施した。				
(課題・改善点)				
建築後22年を経過していることから長寿命化に対応するため予防・維持修繕に努める。 今後も点検結果等による施設・設備の修繕・工事については、優先度や緊急性を考慮した上で、予算措置を行うとともに、利用者に影響が出るような事案については、安心安全のため、早急に対応していきたい。				

60	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	①文化・芸術の創造	所 管	生涯学習課	
事業名	文化祭等の文化活動発表の場の充実	開始年度	昭和42年度	
事業内容	自立した活動を行う文化団体や個人に対し、活動成果発表の場として市文化祭等を開催する。幅広い年齢層の市民が参加し活発にコミュニケーションを図れる場を創出する。 子どもを対象に創作活動を通じて富里の文化や芸術に関心を持ち想像力を育む機会を提供する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
来場者数	延べ1,500人	延べ11,874人	A	
(達成度)				
11月3日～11月5日の3日間市内の一般及び団体による発表・展示・行事（大会・体験）の文化祭を開催した。（34団体） 11月～12月にかけて、とみらいテラスにて「児童・生徒作品展」の展示を開催した。【小学生368名・中学生115名・参加園7園（富里幼稚園1点・浩養幼稚園2点・葉山こども園1点・向台こども園1点・日吉台幼稚園2点）※幼稚園こども園は合同作品】 (課題・改善点)				
一般団体の参加が減少傾向にある。参加団体の高齢化が進み、参加自体が厳しい状態にある。 また、児童・生徒作品展がとみらいテラスに移動したことで、公民館開催の文化祭が親子での来場者数が減少した。児童・生徒作品展の来場者は増加した。 若い世代の来場者が増えるよう子どもの参加できる内容について再考する必要がある。				

61	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	①文化・芸術の創造	所 管	生涯学習課	
事業名	芸術作品鑑賞機会の創出	開始年度	平成20年度	
事業内容	富里市内及び近隣市町に在住する芸術家の作品を展示し、これらの芸術家の存在を広く市民に伝えるとともに、とみらいテラスギャラリーにおいて質の高い芸術作品の鑑賞機会を創出する。 さらに富里中央公民館にて県民芸術劇場公演を開催し優れた舞台芸術の鑑賞機会を設ける。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
来場者数	延べ9,000人	延べ11,397人	A	
(達成度)				
令和6年度は年4回の展示を行い、令和5年度に引き続き多くの方々に来場いただいた。市民に質の高い芸術作品の鑑賞機会を創出できた。 また、県民芸術劇場公演についても幅広い年代の方々に来場いただいた。				
(課題・改善点)				
来場者より好評の声をいただいているため、年4回の展示を継続して行う必要がある。				

62	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守		所 管	生涯学習課
事業名	無形民俗文化財継承事業への支援		開始年度	昭和55年度
事業内容	市指定文化財である「久能獅子舞」及び「中沢麦つき踊り」両保存会の継承活動事業に対し、経費の一部を補助して活動を支援する。			
指 標		令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価
活動回数		久能獅子舞 : 年2回 中沢麦つき踊り : 年1回	久能獅子舞 : 年2回 中沢麦つき踊り : 年1回	A
(達成度)				
両団体共に、富里市の無形民俗文化財を継承するため、練習等を行っている。予定どおり活動を行い継承活動の目的は達成できている。久能獅子舞は4月と8月に、中沢麦つき踊りは10月に実施した。				
(課題・改善点)				
両団体共に、高齢化と担い手不足が課題となっているが、久能獅子舞では運営の一部を地区出身の若手が担い、中沢麦つき踊り保存会では、とみちゃん秋まつりに出演する等、普及・周知活動に努めるなど、各団体共、課題に対して取り組んでいる様子がみられる。				
今後もこれらの保存活動事業に対し、従来の経費の一部補助に加え、映像記録を残す等の対策が必要になる。				

63	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守		所 管	生涯学習課
事業名	文化財の保護		開始年度	—
事業内容	富里市文化財保存活用地域計画に定めた文化資源の保存に関する措置を着実に実施し、歴史的価値の高い文化資源を後世に確実に伝える。			
指 標		令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価
地域計画中、保存に関する措置の開始件数		2 件	1 件	B
(達成度)				
調査が終了した4,490点の守札（鈴木やゑ家の木札）を市指定文化財に登録した。				
(課題・改善点)				
地域計画で設定している保存に関する措置について、関係部署との調整が必要なものがあるため、長期的に継続した協議が必要である。				

64	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	埋蔵文化財の保護	開始年度	昭和49年度	
事業内容	開発行為に伴って未発掘の可能性がある遺跡について、現状保存ができるように事業主と協議し、現状保存が困難な場合には発掘調査を実施して遺跡の記録保存に努める。 また、前年度に実施した発掘調査の成果を報告書にまとめる。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
文化財包蔵地確認件数	400件	595件	A	
報告書発行	1 件	1 件		
(達成度)				
事業者からの埋蔵文化財包蔵地の確認に迅速に対応し、未発掘の箇所について発掘調査を行った。また、令和5年度の発掘調査について、報告書を刊行した。				
(課題・改善点)				
システム上の地図が更新されていないので、事業者の所有する地図と照合しない場合があり、更新を検討していく必要がある。				

65	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	②文化資源の保守	所 管	生涯学習課	
事業名	各種文化財の実態調査	開始年度	平成28年度	
事業内容	富里市文化財保存活用地域計画を作成し、文化庁の認定を受けたことから、この中で定めた指定文化財とするための詳細調査や総合把握のための調査を実施し、その成果を台帳化や地理情報システムへのデータ登載を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
詳細調査及び総合的把握調査開始件数	2 件	2 件	A	
(達成度)				
地域計画策定時の目標である4件の文化財指定に向けて、令和5年度に2件の調査・研究を開始し、令和6年度も継続して調査・研究を行った。				
(課題・改善点)				
調査・研究から指定等まで複数年に渡る取組となり、更にシステムへのデータ反映まで着実に進めていくための進捗管理が必要である。				

66	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用	所 管	生涯学習課	
事業名	郷土資料の展示	開始年度	令和2年度	
事業内容	富里市郷土資料展示室の定期的な展示品の交換により、より多くの郷土資料に直接触れ合える機会を提供する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
展示入替え回数	8 回	9 回	A	
(達成度)				
掛軸を2か月ごと、刀剣を3か月ごと、古文書を6か月ごとに入替展示をするとともに、収蔵している文化財について紹介し、市内外に富里の歴史を伝えるよう努めた。資料状態による展示品の交換も行った。				
(課題・改善点)				
定期的に展示品の交換を行った。郷土資料展示室に関するリーフレットの発行を行うなど、郷土資料展示室のPRを行う必要がある。				

67	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用		所 管	生涯学習課
事業名	旧岩崎家末廣別邸の公開		開始年度	平成29年度
事業内容	国登録有形文化財である「旧岩崎家末廣別邸」を整備し、機能の維持及び活用を図る。 修復中のため限定的ではあるが、主屋の公開を行う。			
指 標		令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価
主屋公開回数		5 回	4 回	B
(達成度)				
主屋内部の特別公開を3回行ったほか、工事現場の公開を1回行った。				
(課題・改善点)				
令和6年度で修復工事を終了とし、令和7年4月26日から、主屋の一般公開を開始する。日曜日にはガイドを行うなど、旧岩崎家末廣別邸やその歴史について市内外の方々に知ってもらう。より多くの方々の関心を引き付けるため「旧岩崎久彌末廣別邸公園」や「末廣農場」との連携を強化する必要がある。				

68	目標	3 文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進		
重点項目	(5) 文化・芸術の振興			
	③文化資源の活用	所 管	生涯学習課	
事業名	文化財を活用した学習支援	開始年度	—	
事業内容	旧岩崎家末廣別邸での学習や市内で出土した様々な埋蔵文化財、寄贈された民具、収集した写真資料を活用した郷土の歴史教育支援を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
歴史教育支援回数	10回	12回	A	
(達成度)				
市内小学校をはじめ、各種団体から別邸のガイド依頼があった。台東区の小学生が見学に訪れ、ガイドを行った。また、市の事業「とみっこ大学」、「ふるさと巡検」で別邸について説明を行い、児童や先生方に別邸を知ってもらうことができた。				
(課題・改善点)				
学校から富里の歴史について講義の依頼が来ており、高評価を得ている。事業を継続的に実施するには人員確保が課題であり、ボランティアガイドの育成などを検討する必要がある。				

69	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	（６）スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ推進委員の資質向上を目的とした研修会等への参加	開始年度	昭和53年度	
事業内容	スポーツ推進委員が研修会・講習会へ積極的に参加することにより、時代のニーズに即したニュースポーツの習得や適切な指導方法の研鑽を図る。また、市民からの要請に応じた指導やスポーツの普及に努める。			
指 標	令和６年度目標	令和６年度実績（実施率）	総合評価	
研修参加回数	５回	２回	Ａ	
ニュースポーツ体験の実施回数	４回・２０人	４回・６０人		
（達成度）				
新任委員がいなかったため、新任委員が対象となる研修の参加がなくなり、目標値を下回る結果となったが、各委員が知識や技能のスキルアップに努めた。 また、市民を対象としたニュースポーツ体験（ボッチャやユニカールなど）を、年３回開催し、実施回数の目標値は下回ったものの、多くの市民の参加があった。				
（課題・改善点）				
推進委員の高年齢化も進むことから、若年層の新たな委員の確保が必要である。「ニュースポーツ体験会」の開催に当たっては、市民がスポーツをする機会を増やすため、積極的に広報・ＰＲ活動を行う必要がある				

70	目標	4 市民の誰もが生涯にわたリスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	総合型地域スポーツクラブの設立支援と育成	開始年度	平成22年度	
事業内容	総合型地域スポーツクラブの運営支援を行う。また、地域コミュニティの場として、定期的・継続的にスポーツ活動ができるよう、身近な公共スポーツ施設を活動拠点として提供する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
富里南桜クラブの会員数	40人	45人	A	
富里南桜クラブの活動回数	40回	42回		
(達成度)				
毎週木曜日を活動日とし、60歳～80歳代女性を中心に片足立ちや踏み台昇降等の健康体操を実施した。 やむを得ない事情で中止にすることはあったが、おおむね予定通りに開催されている。また会員同士のコミュニティの場として提供することができた。				
(課題・改善点)				
今後、市公式ホームページや広報紙を通し、クラブの活動内容の紹介や会員募集等の支援を行う。				

71	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	①生涯スポーツ体制の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ・レクリエーション活動を中心とした生涯スポーツの普及	開始年度	昭和55年度	
事業内容	水泳教室のほか、年齢や体力に応じた軽スポーツの楽しさや魅力を体験できるように各種事業を開催し、いつでも、どこでも気軽にできるスポーツの普及に努める。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
水泳教室及びニュースポーツ体験会の参加人数	延べ70人	延べ60人	A	
スポーツ出前講座の実施	2回	3回		
(達成度)				
水泳教室については、熱中症対策のためやむを得ず中止となったが、年齢や体力を問わず、誰でも楽しめる「ニュースポーツ体験会」については、多くの市民の参加があった。また、自らスポーツを学びたい市民に対し、スポーツ推進委員を派遣する「スポーツ出前講座」についても、目標を超える回数行うことができた。				
(課題・改善点)				
生涯にわたりスポーツを楽しめるよう、引き続き軽スポーツの魅力を発信するとともに、各種事業を開催し、気軽に体験できる機会を提供していく。				

72	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	「とみさとスポーツ健康フェスタ」の充実	開始年度	昭和39年度	
事業内容	市民の誰もが気軽に参加でき、健康と体力づくりに対する理解と関心を深め、積極的にスポーツを実践するきっかけづくりの場として「とみさとスポーツ健康フェスタ」を実施する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
参加者数	延べ200人	延べ469人	A	
(達成度)				
スポーツ推進委員が中心となり、様々なスポーツを市民の方に体験してもらい、健康とスポーツに有意義な一日となった。令和5年度も開催したボッチャ大会やソフトバレーボール大会に加え、日大連携としてかけっこ教室、市内ダンス団体によるダンス発表会を実施し、幅広い年代で多くの方に参加してもらうことができた。				
(課題・改善点)				
引き続き、市民の健康と体力づくりのきっかけとなるようなイベントを開催できるよう努める。				

73	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	大学との連携事業による体力の向上とスポーツライフの充実・発展	開始年度	令和4年度	
事業内容	国内外で活躍する、多くのトップアスリートを輩出する、また在籍する日本大学競技部所属学生によるスポーツ教室を開催し、市民がスポーツをすることの楽しさを感じ、またスポーツ活動を通し、市民、市の活力の向上健康の維持・増進を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
教室の開催回数	2 回	1 回	B	
(達成度)				
10月に開催した「とみさと健康スポーツフェスタ」において日本大学陸上競技部の学生による「かけっこ教室」を開催し、市内小・中学生の運動能力向上の機会を創出した。				
(課題・改善点)				
引き続き、日本大学と連携を取り、市民がスポーツをすることの楽しさと、スポーツを通じ、市民の健康維持・増進につながるようなプログラムを実施出来るよう努める。				

74	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	②健康・体力づくりとスポーツ活動の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ団体支援による活動の活性化	開始年度	平成20年度	
事業内容	市広報紙及び市公式ホームページ等を活用し、市スポーツ協会主催の大会や教室への市民参加を促進させる。また、全国大会等に出場する選手等への奨励費の交付や市内のスポーツ団体及び個人の優れた功績などを広く市民に紹介して、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技人口の増加・技術の向上を図る。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
大会・教室の開催回数	50回	62回	A	
全国大会等への出場者数	8 件	12件		
(達 成 度)				
例年に比べ、多くの選手へ奨励費を交付することができた。スポーツ大会や教室を開催し、市民がスポーツに参加する機会を提供できた。多くの全国大会等へ出場する選手がおり、奨励費を交付するとともに、広報等により選手の功績を紹介し、市民の関心向上を図った。				
(課題・改善点)				
市スポーツ協会競技専門部とは情報の共有を行いながら、各種大会、教室が開催できるよう努める。				
また、市民が各種競技全国大会出場時においては、出場する選手へ奨励費を交付するとともに、優れた功績を広く市民に紹介し、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、競技力の向上を図っていく。				

75	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	③学校体育施設開放事業の促進	所 管	生涯学習課	
事業名	学校体育施設の効果的利用の促進	開始年度	昭和50年度	
事業内容	各種スポーツ団体からの利用申請を調整し、学校体育施設を含めた体育施設の効率的な利用を促進する。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
学校体育施設開放 利用団体の登録数	延べ70団体	延べ79団体	A	
学校体育施設の開放日数	300日	310日		
(達成度)				
体育施設の修繕や学校行事などにより、一定期間利用を中止することはあったが問題なく利用することができた。				
(課題・改善点)				
学校教育活動を優先しながら、教育施設の有効活用を念頭に置き、地域における「身近な運動、スポーツ施設」として、更に多くの利用団体が活用できるよう効率的、効果的な利用を促進する。				

76	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	（６）スポーツの振興			
	④スポーツ施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	スポーツ施設予約システムの定着と施設利用の拡大	開始年度	令和４年度	
事業内容	富里社会体育館や市営運動場をはじめ、市内公共スポーツ施設の利用申請方法にオンラインによる方法を導入し、運用を開始する。各施設の利用予約、空き情報もリアルタイムで発信することで、施設利用者は、いつでもどこでも情報を取得し、サービスを受けることができる。システム導入に当たっては、誰もが操作しやすいと感じるシステムを構築し、利用の促進と周知を行う。			
指 標	令和６年度目標	令和６年度実績（実施率）	総合評価	
オンライン申請件数	1,800件	3,455件	A	
(達成度)				
問題なく利用することができ、本システムの利用促進と周知を図った。				
(課題・改善点)				
本システムを定着させ、更に本システム利用者数の増加を図りスポーツ施設の利用拡大に努める。				

77	目標	4 市民の誰もが生涯にわたりスポーツに参加できる環境づくり		
重点項目	(6) スポーツの振興			
	④スポーツ施設の整備	所 管	生涯学習課	
事業名	社会体育施設の整備充実	開始年度	平成31年度	
事業内容	社会体育施設を良好な状態で貸し出すことで、利用者の安全を確保する。また、施設の利用率を上げることで、明るく豊かな市民生活の向上を目指すことを目的として今後の改修計画を策定し、適切な取り組みを推進していく。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
施設・設備の修繕・工事	10件	8件	B	
利用件数・人数	2,500件・66,000人	3,455件・58,024人		
(達成度)				
修繕・工事は予定通り施工しており、問題なく利用できた。				
(課題・改善点)				
安全・安心にスポーツができる環境を提供し続けるためにも、類似施設の改修例を参考とし、再整備、機能向上を図る整備計画の策定を検討していく。				

78	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	（7）青少年の健全育成の推進			
	①思いやりのある青少年の育成	所 管	生涯学習課	
事業名	青少年相談員活動の推進	開始年度	昭和38年度	
事業内容	体験活動を異学年と経験することを通じて、人間関係の形成や人を思いやる心を養うことを目的として、青少年相談員連絡協議会の主催事業を実施する。 また、それぞれの小学校区においても、学校、家庭、地域と連携して、キャンプやバザーなどの体験活動や防犯パトロールなどの青少年健全育成活動を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
主催スポーツイベント参加者数	50名	65名	A	
主催スポーツイベント参加者の満足度	80%	93%		
(達成度)				
従前のスポーツイベント「綱引き・ドッジボール大会」に代わる、より手軽に参加できるスポーツイベントについて検討を重ね、第1回交流会の開催に至った。中高生ボランティア等、学生の参加もあり、異世代交流及び国際交流の機会を持つことができた。				
(課題・改善点)				
良好な雰囲気楽しんで行うことはもちろん、安全管理面も引き続き徹底することができるよう、募集人員及び人員配置等役割を検討する。				

79	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	（７）青少年の健全育成の推進			
	②家庭教育の場の提供		所 管	生涯学習課
事業名	家庭教育の充実		開始年度	昭和39年度
事業内容	子育てに関する学習機会と仲間づくりの場となる家庭教育学級を、各市立幼稚園及び小・中学校に開設する。併せて講演会や子育て学習会を開催し、子育てに関する学びの場を提供する。 また、子どもたちの生活リズムの維持と向上を図るため「早寝・早起き・朝ごはん」運動の周知を図る。			
指 標	令和６年度目標	令和６年度実績（実施率）	総合評価	
家庭教育学級での学習会開催数	48回	55回	A	
講演会参加者の満足度	80%	96%		
(達成度)				
参加者の満足度は学習会、講演会共に高い。開催方法や学習内容に小中合同や子どもと一緒に等参加者確保の工夫がみられる。早寝・早起き朝ごはん運動冊子を取り寄せ、幼・小・中保護者に配布し、啓発を図った。				
(課題・改善点)				
家庭教育学級学習会・講演会ともに体験的な活動やグループワークを取り入れたり、要望の多いテーマを取り入れるなど改善を図っているが参加者数の増加には至っていないことから、より魅力ある内容について検討していく。				

80	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	（7）青少年の健全育成の推進			
	③地域社会と家庭教育の連携	所 管	生涯学習課	
事業名	放課後子ども教室の推進	開始年度	平成20年度	
事業内容	子どもたちが放課後に、地域の大人や異学年との関わりの中で社会性や協調性などを身に付け、体験活動を通じて心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進していく。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
放課後子ども教室参加児童数	延べ2,100名/7校	延べ1,822名/7校	A	
参加児童の満足度	80%	96%		
(達成度)				
各校、放課後子ども教室に参加される児童の割合は高かった。子どもたちが積極的に物事に取り組んでいたことがよかった。				
(課題・改善点)				
放課後子ども教室に参加された児童からは、「全部楽しかった」など高い評価を受けたが、ほかにサッカーや鬼ごっこなどやりたいとの多数の声を頂いたため、可能な限り多くの期待に応えられるようにしていく。				

81	目標	5 健全な心と体を育む青少年健全育成の取組		
重点項目	(7) 青少年の健全育成の推進			
	③地域社会と家庭教育の連携	所 管	生涯学習課	
事業名	「とみっこ宣言」の周知・定着	開始年度	平成28年度	
事業内容	学校・家庭、地域がそれぞれの責任と役割を自覚し、富里市の未来を担う子どもたちの育成を図るための「とみっこ宣言」を広く周知し、定着させて、学校、家庭、地域がさらに連携して子育てに取り組めるように支援していく。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
家庭教育学級・講演会等での周知回数	26回	35回	A	
とみっこ宣言の書面配布、講話等周知手段	2方法	2方法		
(達成度)				
家庭教育学級説明会や各学級の開級式及び幼・小・中の子育て学習会でとみっこ宣言文を配布し趣旨等の説明を行った。家庭教育だよりの紙面にとみっこ宣言文を9回掲載し周知を図った。				
(課題・改善点)				
講演会や家庭教育学級等でのとみっこ宣言文周知は今後も継続して行う。保護者や講演会参加者以外の方への周知を図っていくことが課題である。				

82	目標	6 平和・人権意識の向上への取組		
重点項目	(8) 平和・人権意識の向上			
	①国際化社会に対応する子どもへの支援	所 管	生涯学習課	
事業名	英語体験活動の実施	開始年度	令和5年度	
事業内容	英語力の向上と国際理解の促進を図り、「英語に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことを目的に、より多くの子どもたちが英語にふれあえるよう、放課後子ども教室における活動支援を行う。			
指 標	令和6年度目標	令和6年度実績（実施率）	総合評価	
「英語体験活動」実施小学校数	7 校	6 校	B	
「英語体験活動」の実施回数	14回	6 回		
(達成度)				
令和5年度から英語体験活動を放課後子ども教室を開始し、全校実施を目指したが、6校での実施に留まった。内容については、参加児童が英語に慣れ親しむことができるように工夫して実施できた。				
(課題・改善点)				
より多くの児童に英語を体験してもらえるように各校のプログラムを充実させていく。				